

徳島・中島田遺跡

- 1 所在地 徳島市中島田町二丁目
- 2 調査期間 一九八六年（昭61）二月～二月
- 3 発掘機関 徳島県教育委員会
- 4 調査担当者 福家清司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀後半～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（徳島）

中島田遺跡は鮎喰川東岸に広がる沖積平野上に営まれた遺跡で、標高三～四mの低湿地帯に位置する。中世の頃、当地周辺には康和二年（一一〇〇）に成立した安楽寿院領名東荘があり、荘内に属した現在の蔵本には「倉本下市」と史料に見える市が成立していた。この蔵本は中島田遺跡が所在する中島田に隣接する。一九八六年に県道徳島鴨島線の道路改良工事に伴っ

て発掘調査が行われ、中世の集落遺跡であることが明らかとなった。検出された遺構は鎌倉時代後半の掘立柱建物・土壇・溝、室町時代後半頃に埋没したと推定される自然流路などである。出土遺物には中世の日常雑器類のほか、輸入陶磁器・銅銭・木製品・矢などがある。木簡は柿経と見られる一点を含めて計五点出土した。いずれも室町時代後半の遺物を伴う自然流路からの出土である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「 咄吠哩急々如 215×23×2 011
- (2) 々々如律令 九、八十一 八九七十二 (110)×21×3 019
- (3) 「 愛染王屍急 117×53×5 032
- (4) 「正見邪見 利根鈍根× (93)×9×1 019

(1)はいわゆる「天聖符」、(2)も上半部を欠失するが同様と推定される。(1)は水点と梵字(ウン)を冒頭に配する。(2)には陰と陽の数字の極数を示す「九々八十一、八九七十二」を記す。(1)の末尾に認められる墨痕も九九を記した痕跡と見られる。(3)は諸病平癒を祈願する際に効力を発したとされる「愛染王符」であるが、出土例はあまり知られていない。比較的厚手の板を使用し、上端に一对の切り込みをいれている。以上の四点は、形態・内容から呪符木簡に属す



(3)



(2)

るものであるが、(4)は妙法蓮華経薬草嚙品の经文の一節を書写した柿経に属するものである。こうした柿経は大量に出土する例が多いが、本例の場合は単独の出土である。

解説に際しては奈良国立文化財研究所の館野和己氏、奈良大学の水野正好氏の御教示をいただいた。

(福家清司)

木簡研究 第五号

巻頭言——木簡史の研究について——

関 晃

一九八二年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 白毫寺遺跡 藤原宮跡 山田寺跡 阿部六ノ坪遺跡 長岡京跡(1)

長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長岡京跡(4) 仁和寺南院跡 大坂城跡

梶子遺跡 道場田遺跡 野畑遺跡 穴太遺跡 下野国府跡 下野

国府跡寄居地区遺跡 長原東遺跡 多賀城跡 弘田柵跡 日野川

朝宮橋下流 桜町遺跡 出合遺跡 辻井遺跡 助三畑遺跡 肩脊

堀の内遺跡 草戸千軒町遺跡 田村遺跡 高畑廃寺 藤田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(五)

藤原宮跡

字訓史資料としての平城宮木簡

——古事記の用字法との比較を方法として——

小林 芳規

平城宮出土の衛土関係木簡について

鬼頭 清明

木簡とコンピュータ

田中 琢

書評・『草戸千軒——木簡一——』

水藤 真

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円